

実践報告 (Report)

保育者・教師養成課程で学ぶ学生の主体的学び(学びの主体性)の促進を目指した授業の試みについて

——「手書き A3 課題」を授業に活用することの意義とその効果——

An Attempt In Class to Enhance Activeness in Learning of the Students in the Training course of Nursery and Elementary school Teacher: The Meaning and Effect On Introducing “Handmade A3 Task” For Summary of the Lesson after Group Discussion and Presentation

服部 次郎*
HATTORI, Jiro*

キーワード：学びの主体性，調べ学習（手書き A3 課題），グループ討論，発表体験（主体的学び）

Key words：Activeness in Learning, Preparatory Task (Handmade A3Task), Group Discussion, Experiences of Presentation

1. 研究の背景と目的

筆者は、IT 機器が多用される現代において、学生自らが手を動かす学習法の効果を探求している。これは教師から知識の伝達を受ける受動的な学習では、今の社会状況に適應して問題解決ができる人材育成は不可能であると考えているからである。そこで筆者は、学生に課題を与え調べ学習をさせた後、その成果を A3 用紙 1 枚に手書きでまとめさせる学習法（以下 A3 課題と呼ぶ）を実践してきている（服部 2014a, b；服部 2015）。この実践により、筆者は学生の「学びの主体性」を育てることができたと判断している（服部 2014a）。

「学びの主体性」については、2012年8月の中教審答申「大学教育の質的転換に向けて」においても、「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。（中略）教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学修への転換が必要である。……学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できるのである。」(p.9) と述べられている。

学習法の効果の検証には、効果の持続性を確認することが大切である。A3 課題は初年次教育として実施しているが、その後も A3 課題を継続していくと初年時より学びの質が高まる可能性が示唆された（服部 2015）。本研究では今年度の保育初等専修（以下保初と呼ぶ）1年生を調査対象とし、今後は同じ対象者を継続的に追跡していくことで、服部（2015）の目的としている「学びの主体性」を高める学習法の効果を更に高めたいと考えている。

その際に、筆者が関心を持つ以下の研究結果を考慮して調査を実施した。渡部（2013）は「主体的な学びというものは学習者本人に生まれるものなのに、先生がそれをどのように引き出すことができるのだろうか、……」という問題提起をしており、さらに山下（2013）は「能動的学修（アクティブラーニング）環境」について「教室内設備環境でのホワイトボードの利用率が87%で最も多く利用されている」や「ホワイトボードは、手書きでフレキシブル性は高い」という報告をしている。本研究では、上記2点の内容を考慮した4つの仮説を設定し、その妥当性を検討する。

- (1) A3用紙により課題に取り組むことは、授業における事前学習・授業での学習成果の発表・発表後の事後学習（発表後の成果のまとめの作業）にも役立つ。
- (2) A3用紙による課題に取り組むことは、授業において自分自身の「主体的な学び」につながる。
- (3) 「手書き A3 課題」作成の際に、パソコン等の機器ではなく、手書きで課題を作成することは学生の「主体的な学び」を促進するという点で効果がある。
- (4) 「調べ学習」をする際に用いた「手書き A3 課題」において、キャラクターも含めた図等を活用することは、学生の「主体的な学び」を促進するという点で効果がある。

2. 研究の方法

改訂版質問紙（文末に資料1として添付）を作成し、筆者の授業「社会福祉」（1年生後期科目）を受講する保初1年生の学生98名（調査日出席者94名）を対象に実施し、仮説の妥当性を検討することとした。本科目「社会福祉」におけるA3課題の活用状況について簡単に説明する。「社会福祉」の授業で里親制度の理解のため活用したビデオ「ぶどうの木」（90分ドラマ）を15回授業の5・6回目に鑑賞し、グループ意見交換・討論などをした上で各自がA3課題を作成した。その後、時間に限りもあるためその内容については6つのグループにグループ発表をしてもらった。

なお、授業におけるこの課題の具体的成果の1例として、学生が作成したA3課題の実物を紹介することにより具体的なイメージを持っていただくこととした（図1）。

3. 結果

初めに質問紙の問1から問4の結果の数字的な面について記す。問1『1年次から活用しているA3用紙により課題に取り組むことは、この授業における事前学習・授業での学習成果の発表・発表後の事後学習（発表後の成果のまとめの作業）にも役立つと思いますか』では、とても役立つという学生が26名（28%）、ある程度役立つという学生が28名（30%）おり、全体では54名（58%）の学生が、役立つ

と感じている。一方、どちらともいえないという学生は39名（41％）おり、平均値は5段階評価の3.8であった（表1）。

問2『A3用紙による課題に取り組むことは、この授業において自分自身の「主体的な学び」につながったと思いますか』において、とてもつながったという学生が13名（14％）、ある程度つながったという学生が40名（43％）おり、全体で53名（57％）の学生がつながったと感じている一方、どちらともいえないという学生は40名（43％）おり、平均値は5段階評価の3.7であった（表2）。

表1. 質問紙の問1. 「1年次から活用しているA3用紙により課題に取り組むことは、この授業における事前学習・授業での学習成果の発表・発表後の事後学習（発表後の成果のまとめの作業）にも役立ったと思いますか」に対する回答結果（94名）。平均値は3.8であった。

評価	とても 役立った	ある程度 役立った	どちらとも いえない	あまり 役立たなかった	まったく 役立たなかった
点数	5	4	3	2	1
人数（人）	26	28	39	1	0
割合（％）	28	30	41	1	0

表2. 質問紙の問2. 「A3用紙による課題に取り組むことは、この授業において自分自身の“主体的な学び”につながったと思いますか」に対する回答結果（94名）。平均値は3.7であった。

評価	とても つながった	ある程度 つながった	どちらとも いえない	あまり つながらなかった	まったく つながらなかった
点数	5	4	3	2	1
人数（人）	13	40	40	1	0
割合（％）	14	43	43	1	0

問3『今回の「手書きA3課題」作成の際に、パソコン等の機器ではなく、手書きで課題を作成することは「学生の主体的な学び」を促進するという点で効果があったと思いますか』では、とてもあったという学生が17名（18％）、ある程度あったという学生が44名（47％）おり、全体で61名（65％）の学生が、あったと感じている一方、どちらともいえないという学生は31名（33％）おり、平均値は5段階評価の3.8であった（表3）。

問4『「調べ学習」をする際に用いた「手書きA3課題」において、キャラクターも含めた図等を活用することは、学生の主体的な学びを促進するという点で効果があったと思いますか』では、とてもあったという学生が19名（20％）、ある程度あったという学生が30名（32％）おり、全体で49名（52％）の学生が、あったと感じている一方で、どちらともいえないという学生は39名（41％）おり、平均値は5段階評価の3.6であった（表4）。

次に「具体的に記述をしてください」の部分の学生の記述について問1から問4まで特徴的と思われるものを取り上げる（注：明らかな間違いを除き原文のままとし、分

表3. 質問紙の問3. 「今回の“手書き A3 課題”作成の際に、パソコン等の機器ではなく、手書きで課題を作成することは“学生の主体的な学び”を促進するという点で効果があったと思いますか」に対する回答結果 (94名)。平均値は3.8であった。

評価	とても あった	ある程度 あった	どちらとも いえない	あまり なかった	まったく なかった
点数	5	4	3	2	1
人数 (人)	17	44	31	2	0
割合 (%)	18	47	33	2	0

表4. 質問紙の問4. 「“調べ学習”をする際に用いた“手書き A3 課題”においてキャラクターも含めた図等を活用することは、学生の主体的な学びを促進するという点で効果があったと思いますか (94名)。平均値は3.6であった。

評価	とても あった	ある程度 あった	どちらとも いえない	あまり なかった	まったく なかった
点数	5	4	3	2	1
人数 (人)	19	30	39	4	2
割合 (%)	20	32	41	4	2

かりにくい部分は () で補足説明を加えた) が、これについては文末に添付した資料2を参照いただきたい。

4. 考察

今回の研究では、目的のところであげた4つの仮説の妥当性について質問紙調査を実施し、最初にその結果を統計的に分析したところ、仮説に対する一定の支持 (問1で58%, 問2で57%, 問3では65%, 問4で52%) は得られたものの、強く支持する結果は得られなかった。今回の調査でとくに目立ったのは「どちらともいえない」という反応であり、問1～4において、41%, 43%, 33%, 41%という具合であった。この点については質問紙の内容も含めて、今後その原因などを検討していきたい。

次に資料2にある具体的記述内容について検討する。まずは問1での具体的記述を見ると、「A3 (用紙) 1枚でまとめるのでたくさんある言いたいことから重要なことだけをぬきだしてわかりやすくするために、自分でよく調べたり考えたり友達と話しあったから。また発表の時に他の子の違った視点からの意見を聞き、新しい考え方がみつかったから。」「この課題がなかったら、ドラマを見終わったあと少ししゃべるくらいで、調べたり、どう思っていたか、自分はどう感じたか、考えることはなかったと思うから。」「一つの題材についてまとめ→討論→発表というようなプロセスを経ることは非常に自分の力になりました。」などとある。

これは、「A3課題に取り組むこと」で、「まとめる→重要なことだけをぬき出す→自分でよく調べ、考える」といった具合に、テーマについての学習を深めることがで

き、さらに「友達と話しあうこと、発表時に他の学生の違った視点からの意見を聞くことで新しい考え方を発見する」ことができ広い視野を持つことができるなどの成果を生み、「まとめ→討論→発表というようなプロセスを経ることは非常に自分の力になりました」という学生の思いにもつながっているといえる。

次に、問2について検討する。筆者は日ごろから、「学びの主体性」は全てが自由な状況の中で促進されるだけではなく、むしろA3課題のような課題（枠組み）があり、それに取り組み、時には失敗もするが、それがばねとなり、よりよいものを生み出そうと努力する時にも「学びの主体性」が促進されると考えている。

学生の具体的記述で見ると、「内容は難しかったけど自分なりに研究し、考え、調べたことで分かったことが多くあったし、考えさせられたから。新しく知れたことが沢山あり、もっと知りたいという意欲をもった。」といった具合に、「内容は難しかった」「考えさせられた」ために、かえて「自分なりに研究し、考え、調べ」、その結果として、「分かったことが多くあったし、考えさせられたから。新しく知れたことが沢山あり、もっと知りたいという意欲をもった。」という結果につながっている。またA3課題では、「普通のレポートよりも、よく考え」、さらに「A3課題は、普通のレポートより自由で個性を出すことができ（るので）、より自分の思うこと、考えたことを書くことができるから自分からやる気をもって取りくむことができました。」とあるように「自由で個性を出す」ことができる要素ももっているといえる。別の言い方をすれば、学生が記述しているように「まっ白な紙（A3用紙）から始まったのでいちから自分で考え、何を書くか、何を調べるか、主体的に考えるようになっていたと思います。」ということにもなるのである。さらに、「自由にいちから書くので、自分自身で考えることが必要だったから。」「興味が以前なかったものも興味を持ち自分で調べるよい機会でした。」「自分でいちから書く内容、まとめ方を考え、見やすいように工夫しないといけないから、どうせやるならばいいものを！と一生懸命取り組みめた。」とあるように、言い方こそ違え「自分で考えなければ（ならない）」という気持ちと自由な枠組みの中で「やるのであればいいものを作りたい」という思いとが交錯することにより「学びの主体性」が促進されたと考えられる。

ここでの筆者の主張には、自分から進んで自発的に学ぶという意味での「主体的な学び」が出来ているとはいいがたいのではという「主体的な学び」について議論するときに必ず投げかけられる内容も含まれている。これは渡部（2013）の「主体的な学び」というものは学習者本人に生まれるものなのに、先生がそれをどのように引き出すことができるのだろうか、……」という問題提起とも関連しており、極めて重要な点といえる。筆者はこれまでA3課題は「学びの主体性」を促進するのに適切な媒体であると主張してきたが、「学びの主体性」の「主体性」の意味するところを明確にすることで、この問題の整理ができるのではないかと考える。確かに、「主体的な学び」には、渡部（2013）が主張するように「主体的な学び」というものは学習者本人に生まれるもの、言い換えれば「自発的な学び」という側面があるといえる。その一方で、

今回上に紹介した学生たちの記述からも分かるように、A3課題があるからこそ、そこから「主体的な学び」が引き出されるという側面もあると考えられる。

ここでの「主体的な学び」とは、学びのきっかけは外部から与えられたA3課題であり、必ずしも内発的、自発的なものとはいえないが、「実際に自分自身がやってみるという体験」を通じて興味・関心が生まれ、大変ではあったが出来たときには達成感が感じられ、まさに「自分が主体となって学ぶ」気持ちになれたという場合にも当てはまるといえる。最も重要なことは、このように「学びの主体性」を高めることのできる環境や適切な課題を工夫し提供することであり、これは、学生の希望する将来の職業を考えたとき、教員の果たすべき大切な役割のひとつではないかと筆者は考える。これに関連して、R. M. Ryan and E. L. Deci (2000) で用いられているところの、competence (有能感)、autonomy (自律性)、relatedness (関係性)、そして extrinsic motivation (外発的動機) などの概念は、今筆者が述べた考えを支持するものと考えられる。Ryan and Deci (2000) は「学校において、より自己決定に基づいた学習の促進には、人間の三つの基本的欲求(有能感・自律性・関係性)を満足させるような教室状況、つまり、新しい考えや事柄に出会い、それに新たな技能を用いて対応するとき、(他の児童や先生と)良い関係にある、うまく対処できている、主体的に活動できている、と感じられるような内的欲求の満足を支える教室状況、を必要とする。(p. 65) [筆者訳]」と結論部分で述べている。筆者の1年次授業においてA3課題を与えられた場合を例にとって考えてみる。ひとつは、「内容は難しかったけど自分なりに研究し、考え、調べたことで分かったことが多くあったし、考えさせられたから。新しく知れたことが沢山あり、もっと知りたいという意欲をもった。」というもので、初めての内容に取り組むときの大変さがよく出ているが、「考えさせられたから(こそ)新しく知れたことが沢山あり、もっと知りたいという意欲をもった」と学生が述べているように、より意欲的になっていることがわかる。もう一つのものは、はじめのものは異なり、はじめから「A3課題は、普通のレポートより自由で個性を出すことができるため、やる気をもって取りくむことができる」や「まっ白な紙(A3用紙)から始まったので1から自分で考え、何を書くか、何を調べるか、主体的に考えるようになっていたと思います。」といったものである。つまり後者の学生たちの中では、「まっ白な紙(A3用紙)から始まる」課題で、課題の自由度が高く、課題の中に自分の個性も出せるため、自律性が高まり、やる気つまり主体的な学びにつながっていると考えられる。このように、これまでやったことのないA3課題を初めて与えられた場合、学生によっても受け取り方には差がみられる。しかし、初めは課題の内容が難しいという受け取り方をした学生の場合であっても、その課題に取り組み、取り組む過程の中で面白さを発見したり、大変だがその課題をやり遂げて沢山のことを知ることができたりということによって達成感が得られると、学生は有能感、自律性などを感じ、主体的に学び学べていると感じることができるといえる。いずれにしても、「学びの環境・教材(教室状況)」が重要であり、学びへのきっかけが内発的なもの

のか外発的なものかは、必ずしも、決定的なものではないと考えられる。

次に、問3について検討する。具体的記述で見ると、「自由にでき個性がでるので自分から積極的にとりくめました。」「パソコンが使えてしまうと文をコピーしたり、あまり理解していなくてもそのまま文に入れてしまう場合があるので、手書きということで（「学生の主体的な学び」を）促進できていたと思います。」「自分の文字で自分の絵で表現した方が、機械よりも気持ちを伝えられたと思う。」「自分で一から書く内容、まとめ方を考え、見やすいように工夫しないといけないから、どうせやるならばいいものを！ と一生懸命取り組めた。」「自分で作ったという満足感や後で見返した時、手書きの方が頭に残っているから。」などと記述され、A3課題の特性への言及が多い。

さらに「教育関係に将来ついた際、生徒に見本等を見せる際困らないと思います。」「手書きで作成することにより自分がイメージしているものに近いものを作ることができる。また文字をきれいに書こうと意識するため、先生になるにはよいことだと思った。」「将来絵をかくことは必須なのでその練習ができるから。」といった将来の仕事に役立つという記述も目立つ。

これらは、山下（2013）の「能動的学修（アクティブラーニング）環境」に関する報告にある「教室内設備環境でのホワイトボードの利用率が87%で最も多く利用されている」や「ホワイトボードは、手書きでフレキシブル性は高い」という調査結果とも共通する特性をA3課題がもつことを示していると考えられる。具体的には、将来専門職になることを考えるとA3課題の作成のような手書きに意義を感じることに、さらにその他の利点として、工夫しながら書くため一生懸命取り組むこと、手書きの方が頭に残ること、気持ちを伝えられること、自分が作ったという満足感があること、などがあげられる。すなわちこれは「学びの定着」にも有効であり、「学びからの満足感」も得られるということも意味しており、A3課題を導入することには大きな意義があることが、学生の記述内容から読み取れる。また山下（2013）は「しかし、記録、整理という点ではICT（情報通信技術）環境の方が有利である。その点を学生が実感してくるようになると、今後、学生が利用するデバイスとして、……新しい学修環境の活用が進む可能性があるのではないかと考えられる。」と将来の可能性にも言及している。筆者はこれを否定する立場に賛成するわけではないが、A3課題に取り組んだ学生の意見を参考にすると、その方向に進むかどうかには大きな影響を与える要因は、それぞれの学生が将来自分の就くと予想する職業の特性、その仕事を行う環境、そして対象となるもの、すなわち保育・教育の世界では児童がその対象となるが、そのような特性に負うところが大きいと考える。そのため、「ホワイトボードの利用」や「手書きのA3課題」といったものに代表される環境とICT（情報通信技術）環境は、相互に相補いながら、学生の能動的・主体的学びを支えるものとして今後も活用されるのではないかと考える。

最後に、問4についてみてみる。具体的記述で見ると、「伝えたい文、言葉を絵に

して表現することで同じ考えでも新しい角度からの発見がありました。」やはり内容に合わせた絵を入れようとしたり、絵がうまければ私ももっとたくさん人物をかき、わかりやすくできたと思います。また文だけよりも絵を入れることで人と違うものになりやすく、主体的に自分からやることができました。」「キャラクターを含めた図をかいた方が自分でも分かりやすくやる気がでたし、見る方も、図があった方が見やすいし伝わりやすいと思った。」「『読む相手に分かりやすく伝えよう』という自分のためにも読み手のためにも自ら工夫する機会になった。」「字だけだと見ようと意欲がわきにくいですが、図等使用することで見やすさ、意欲がわくと感じました。」「保育士は絵を描く機会がすごく多いので、この課題に取り組むことで練習になると思う。工夫する力がつくと思う。」「将来絵をかくことは必須なのでその練習ができるから。」「キャラクターや図がある方が書く方も見る方も楽しい。他の子が考えないようなものにするにはどうすればいいかとたくさん考え、その努力がA3課題に反映されたと思う。」などとある。

つまり効果の内容としては、「どうすれば他人が見たいと思うものになるかと考えながら、この課題に取り組むことで、他人を意識して努力をする (Ryan and Deci 2000 で用いられている「関係性」) ために満足感が得られ、それによって「楽しさ」が感じられるようになっていたり、自身の工夫力、発想力、主体的な取り組みなどにより力がつく、つまり専門職を目指すものにとって必要な資質が身につくことを実感したりして、「学びの主体性」が高まっていくことがうかがわれる。

以上のように、1年次の学生については、4つの設問において筆者の仮説の妥当性は統計的には十分裏付けることはできなかったが、質問紙の具体的記述によって一定水準支持されたと考えられる。今回の研究において、質問紙の内容もふくめ検討すべき点明らかにされたため、今後の継続的調査のなかで改善を図り、授業内容・構成等についても再検討し、「学生の主体的学び」が保障される授業作りに心がけたいと考える。

謝 辞

本研究をまとめるにあたり、貴重な助言・指導に加え、査読いただいた本学教育学部准教授の野崎健太郎博士に対し、こころより感謝いたします。また授業において本研究を進める上で協力をしていただいた学生の方々、さらにA3課題の掲載についても快諾していただいた学生の方にもお礼を申しあげたいと思います。

■引用・参考文献

- 中央教育審議会 (2012)：「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて—生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ—」(答申)。
 藤田英典 (2013)：「学びの主体性と共同性」, 京都大学高等教育研究第19号, pp. 142-152.

- 服部次郎（2014a）：「保育者・教師養成課程における初年次教育としての施設（学校）見学を充実させる事前・事後学習の実践(3)―事前指導でのテーマや事後指導での討論に注目し、学生の主体的学びの促進を目指した改訂版「施設調べ」の試み―」, 椋山女学園大学教育学部紀要第7号, pp. 187-208.
- 服部次郎（2014b）：「A3用紙という空間を通じて」椋山女学園大学FD委員会活動報告書第14号, pp. 47-48.
- 服部次郎（2015）：「保育者・教師養成課程における初年次教育としての施設（学校）見学を充実させる事前・事後学習の実践のその後の専門教科への影響について―学生の主体的学びの促進を目指した授業での試み―」, 椋山女学園大学教育学部紀要第8号, pp. 179-192.
- 岩波書店（1976）：岩波国語辞典第二版.
- Ryan, R. M. and E. L. Deci (2000): Intrinsic and Extrinsic Motivations: Classic Definitions and New Directions, *Contemporary Educational Psychology*, 25 : 54-67.
- 鈴木京子（2004）：「Web教材開発における学びの仕掛けとは何か―中学数学・授業研究からの示唆―」, 日本教育情報学会第20回年会, pp. 132-133.
- 高橋雅春（1986）：『樹木画』テスト, p. 7, 文教書院.
- 渡部信一（2013）：「認知科学からみた『主体的な学び』」, 京都大学高等教育研究第19号, pp. 114-125.
- 山下泰生他（2012）：「主体的な学びを目指す学修環境の整備とその評価」, 日本教育情報学会第29回年会.

資料1 本研究で用いた質問紙（アンケート用紙）

科目（社会福祉）1年後期

授業改善とそのための実践研究に向けたアンケートへの協力依頼

2015年12月2日 服部次郎

問1. 1年次から活用しているA3用紙により課題に取り組むことは、この授業における事前学習・授業での学習成果の発表・発表後の事後学習（発表後の成果のまとめの作業）にも役立ったと思いますか（一番近い番号に○をつけてください）。

5. とても役立った 4. ある程度役立った 3. どちらともいえない 2. あまり役立たなかった 1. まったく役立たなかった
（5・4に○の場合はその理由／例：どんな時、どんな形で役立ったかなど、具体的に記述してください）

* 以下、問2～4まで同じ構造のため質問項目のみを記す。

問2. A3用紙による課題に取り組むことは、この授業において自分自身の「主体的な学び」につながったと思いますか。

問3. 今回の「手書きA3課題」作成の際に、パソコン等の機器ではなく、手書きで課題を作成することは「学生の主体的な学び」を促進するという点で効果があったと思いますか。

問4. 「調べ学習」をする際に用いた「手書きA3課題」において、キャラクターも含めた図等を活用することは、学生の主体的な学びを促進するという点で効果があったと思いますか。

問5. A3課題の作成は初めてですか。

1. 作成は初めてである 2. 作成した事がある

個人の名前が出ることはありませんので、大学における授業の改善のため、私の研究テーマ「学びの主体性」のため、ご協力いただけるとありがたいです。

資料2

質問紙の「具体的記述」部分に書かれていた学生の記述について

問1から問4まで特徴的と思われる9人のものを取り上げた [注：明らかな間違いを除き原文のままとし、分かりにくい部分は（ ）で補足説明を加えた]。

①学生A

問1：A3（用紙）1枚でまとめるのでたくさんある言いたいことから重要なことだけをぬきだしてわかりやすくするために、自分でよく調べたり考えたり友達と話しあったから。また発表の時に他の子の違った視点からの意見を聞き新しい考え方がみつかったから。

問2：普通のレポートよりも、よく考えたから。A3課題は、普通のレポートより自由で個性を出すことができ（るので）、より自分の思うこと、考えたことを書くことができるから自分からやる気をもって取りくむことができました。

問3：自由にでき個性がでるので自分から積極的にとりくめました。

問4：伝えたい文、言葉を絵にして表現することで同じ考えでも新しい角度からの発見がありました。

②学生B

問1：この課題がなかったら、ドラマを見終わったあと少ししゃべるくらいで、調べたり、どう思っていたか、自分はどう感じたか、考えることはなかったと思うから。

問2：まっ白な紙から始まったので1から自分で考え、何を書くか、何を調べるか、主体的に考えるようになっていたと思います。

問3：パソコンが使えると文をコピーしたり、あまり理解していなくてもそのまま文に入れてしまう場合があるので、手書きということで促進できていたと思います。

問4：やはり内容に合わせた絵を入れようとして、絵がうまければ私ももっとたくさん人物をかき、わかりやすくてきたと思います。また文だけよりも絵を入れることで人と違うものになりやすく、主体的に自分からやることができました。

③学生C

問1：表では自分とはちがう観点でとらえてる子もいて他の子の発言は勉強になった。

問2：内容は難しかったけど自分なりに研究し、考え、調べたことで分かったことが多くあったし、考えさせられたから。新しく知れたことが沢山あり、もっと知りたいという意欲をもった。

問3：自分の文字で自分の絵で表現した方が、機械よりも気持ちを伝えられたと思う。機械で伝えきれないことが手書きではできると思う。

問4：キャラクターを含めた図をかいた方が自分でも分かりやすくやる気がでたし、見る方も、図があった方が見やすいし伝わりやすいと思った。

④学生D

問1：一つの題材についてまとめ→討論→発表というようなプロセスを経ることは非常に自分の力になりました。

問2：ドラマで学んだこと以外についても調べるうちに、様々なことに興味をもった。

問3：手書きの方が思い通りにできるから。

問4：『見てもらう』ことを前提に見やすさを考えて作成するようになる。

⑤学生E

問1：ビデオ課題で見た「ぶどうの木」では里親制度のことを正しく学べた。

問2：ききのがしていたセリフや表情を注意深く見聞きすることで、登場人物により感情移入しそしてまとめを頑張ろうと思えた。レイアウトを自分で考えるのも楽しかった。

問3：パソコンだと機械的だが、手書きにより、書いた人の気持ちが伝わりやすい。たとえば色ぬりの色彩でも伝わってくるだろう。

問4：「読む相手に分かりやすく伝えよう」という自分のためにも読み手のためにも自ら工夫する機会になった。

⑥学生F

問1：発表する際に内容がまとめてあるため発表しやすかった。自分で調べたり、感じたことが書かれているため振り返ったりする際困らない。

問2：興味が以前なかったものも興味を持ち自分で調べるよい機会でした。

問3：教育関係に将来ついた際、生徒に見本等を見せる際困らないと思います。

問4：字だけだと見ようと意欲がわきにくいですが、図等使用することで見やすさ、意欲がわくと感じました。

⑦学生G

問1：里親制度を深く考えるきっかけになった。また、今まで分からなかったことを理解できた。

問2：自由に1から書くので、自分自身で考えることが必要だったから。

問3：手書きで作成することにより自分がイメージしているものに近いものを作ることができる。また文字をきれいに書こうと意識するため、先生になるにはよいことだと思った。

問4：保育士は絵を描く機会がすごく多いので、この課題に取り組むことで練習になると思う。工夫する力がつくと思う。

⑧学生H

問1：自分の考えをキーワードでしぼってまとめることにより、課題について深く考えることが出来たから。

問2：課題が与えられたことにより、色々な事を考える時間を作れたから。

問3：自分で作ったという満足感や後で見返した時、手書きの方が頭に残っているから。

問4：将来絵をかくことは必須なのでその練習ができるから。

⑨学生I

問1：やりっぱなしにせず、友だちと意見をかわしたり、紙に書いたりすることで理解が深まったから。

問3：自分で1から書く内容、まとめ方を考え、見やすいように工夫しないといけないから、どうせやるならばいいものを！と一生懸命取り組めた。

問4：キャラクターや図がある方が書く方も見る方も楽しい。他の子が考えないようなものにするにはどうすればいいかとたくさん考え、その努力がA3課題に反映されたと思う。